

～愛知用水完成後の生活と産業～

愛知用水が完成して、農業は大きく変わりました。田んぼの水が干上がることはなくなり収穫高は増えました。

岐阜県可児郡御嵩町から尾張東部や西三河と知多半島の先まで約15,000ヘクタールの田や畑で、稲や野菜の他にぶどう、みかん、いちじくなどの果物や、カーネーション、洋ランなどの花が作られるようになりました。



米の収穫

ぶきの収穫の様子



洋ラン(提供：東海市)



いちじく(提供：愛知県農業水産局)

愛知県産出額1位の農作物の主な産地

ぶき	東海市、知多市
いちじく	常滑市
洋ラン	東浦町、東海市、知多市

愛知用水の水は、水不足で困っていた知多半島だけでなく、春日井市(高蔵寺ニュータウン地区)から瀬戸市、尾張旭市などでも飲み水、台所、お風呂、トイレなど生活のために使われています。

今では約90万人の人たちに使われるようになりました。



生活用水



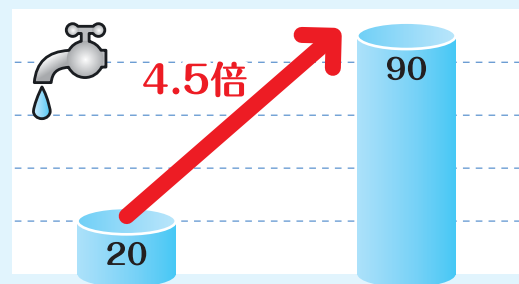
農業産出額(億円)



1961年(昭和36年)

2018年(平成30年)

給水人口(万人)



1961年(昭和36年)

2018年(平成30年)



製鉄所で鋼板を作る様子



製造ラインを流れる鋼板を工業用水により冷却している様子

工場でも
たくさんお水を使
うんだね



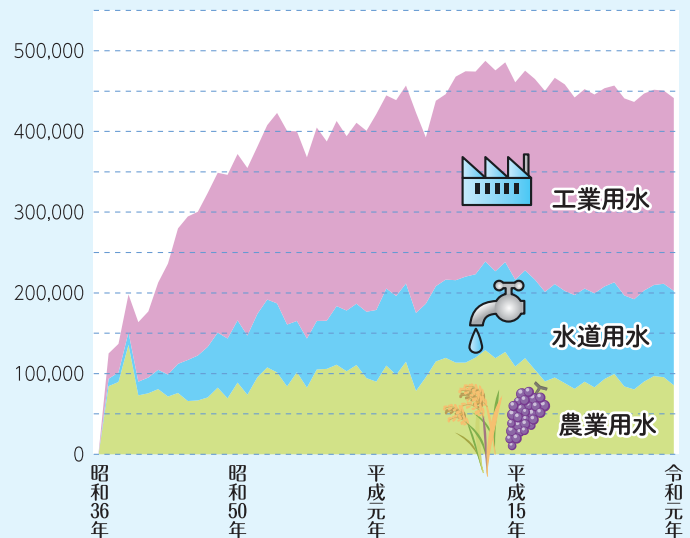
はじめのころと
くらべて、使う量
増えたんだよ

愛知用水の水は、工場でも使われています。
岐阜県可児市にある工場、名古屋市南部や名古屋港から知多半島北部の伊勢湾沿岸に広がる工業地帯などの製鉄所や化学工場、火力発電所など、100を超える事業所で使われています。
愛知用水の水が使われるようになって、地域が発展し新しい住宅や工場が建てられ、水を使う量も増え、私たちの生活も便利になりました。

豆知識

これまでに使われた水量の変化

(単位:千㎡)



出荷額 (億円)

